

日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1
TEL 03-3291-5035 (総動員伝道内)
www.gospeljapan.com/dd/

いつものように

お茶の水クリスチャンセンター 理事長 岸田馨



「それからイエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれ、弟子たちも従った。」(ルカによる福音書二十二章三十九節)

私たちの生活には、日常と非日常がある。また、通常と非常がある。あまり変化のない日常には飽きもするが、非常、異常はできれば避けたいと願う。通常業務が忙しくてきついとき、休暇をとって非日常の旅に出るはスト

レス解消といきたい。

イエスが、「いつものように」山に行かれたのは、「常のごとく」であり、それは「いつもの場所」で折ることを目的としていた。そこにイエスの日常生活の一端を見る。異常の時しか祈らない現代人に比べて、イスラエルの民の祈りは日常生活であった。今日のイスラムの人々の祈りは通常の生活の節目をはかるように、日々の生活に不可欠な行

為となっている。

「いつものように」と訳されている言葉は、「エースト」であり、英語の「倫理」(エシックス)の語源となっている。聖書では、同じ言葉が「モーセの慣習」とか「一緒に集まる習慣を止める」と訳されていることから、本来、道義的な良い習慣を指す言葉として用いられている。

悪い習慣はすぐ身につくのに、良い習慣は容易に自分のものとなりにくい。私なども例外にもれず、三日坊主で止めてしまったことは少なくない。例えば、体に良いといわれる健康器具だ。「いつものように」三日で止めず、良い習慣として身につけていたなら、体脂肪とか出っ腹などに悩むこともないだろう。日常の積み重ねが、どんな妙薬よりも効果が大きいと頭でわかっているにもかかわらず、実行が伴わないのでは「エースト」とはならない。

信仰生活にも「エースト」は不可欠な要素である。信仰が「エースト」であるかどうかを知っているのは、身近な家族ではないか。一代限りのクリスチャンが多い日本の教会の原因の一つであろう。そこに名のみ信徒、隠れクリスチャンを生み出す要因がある。

伝道協の交わりも、倫理的「エースト」がなければ、協力も名ばかりの「おつきあい」に成り果てる。日本の宣教の前進のために、御霊の交わりを祈り求め、日常の労苦のうめきをかち合う団体になりたい。「いつものように」働き、互いのために折り合う良い習慣を身につけよう。世の中が異常と見える時代は、「いつものように」身についたものが、実践の場でものをいう時代なのだから。「時が良くて悪くても」しつかりやって、みこころを宣べ伝えよう。

第十七回 定期総会報告

二〇〇一年四月十日(月)午後二時～四時半、お茶の水クリスチャンセンター四一五で第十七回伝道団体連絡協議会の定期総会が開かれた。開会礼拝において、岸田馨師がテモテ第二、四章一～四節から「二十一世紀の宣教」というテーマで奨励をして下さった。

総会は、議長に姫井雅夫師、書記に中川信義氏を選出し、点呼がなされ、出席団体十九、委任状十八、加盟四十四団体の一／三以上の出席を確認、総会の成立が宣言され、議事に入った。

一、二〇〇〇年度活動報告、及び「協力」編集担当の小町誠一氏が神学校入学のため、萩生田充氏と交替したことが報告され、承認された。

二、二〇〇〇年度決算報告が以下のような説明の後、承認された。収入に関して、(一)会費収入は、予算四十五万円に対し、決算四十一万円であった。四団体が会費未納である。(二)予算に計上されていなかったフェスティバル収入及び雑収入は、これまでのフェスティバル会計を清算した分である。支出のうち、(三)パンフレット返金は、内外盲人ミッションから二重に徴集してしまった料金の内、一回分を返金したものである。(四)研修会の講師謝礼六万円、研修会費四万四千五百四円は本会計より支出した分である。なお研修会特別会計は以前送付した報告書を参照されたい。

三、会計監査報告

辻岡健象師から正確、適正であったことが報告され、これまでの渡辺佐次郎氏の忠実な労に拍手をもって感謝を表した。

四、二〇〇一年度活動計画案が説明され、加盟団体訪問ツアーおよび一泊研修会の具体的検討を常任役員会に一任することで、総額九十二万三千二百二十七円の予算が承認された。

五、二〇〇一年度予算案が説明され、研修会収支のギャップは、本会計より補填するが、参加者が多ければ収入増に繋がるので一人でも多く参加するよう呼びかけてほしい。またホームページを活用するように議長から勧めがなされた。なお伝道協のホームページに自分の団体のホームページを作成したいならば申し出て欲しい。予算は、三万円計上されている。作成は、宮崎光世氏の所で引き受けてくださっている。以上の説明等があつて後、予算案が承認された。

六、二〇〇一年度役員が紹介され承認された。なお日本聖書協会の小林幸順氏に代わって同団体の鈴木奈々姉が常任役員となった。監事は、辻岡健象師と新たに栗原一芳師が就任した。

七、その他

新加盟団体BFP(ブリッジ・フォー・ピース)ジャパンが紹介された。

八、総括 浅見鶴蔵氏

ある団体から電話があり、厳しい中で総会に出席できない。忙しいのでなく仕事がないとのこと。何か協力できればと願うと同時に互いのために祈る必要を痛感した。伝道協加盟団体訪問は、他団体を知るのに大切なことである。研修会の収支が明示されていればよかった。総会参加が昨年は二十団体、今年は十九と一団体減少したが、委任状が十五から十八と、関わりをはっきりさせた団体が少し増

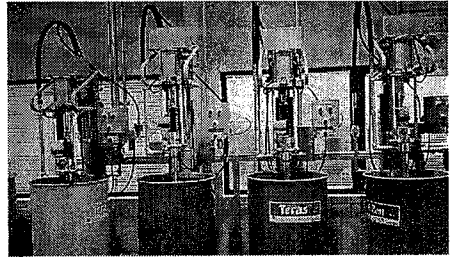
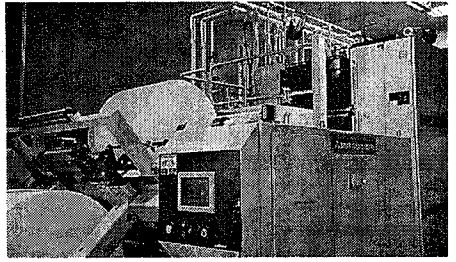
えたことは喜ばしいことである。
第二部 懇談会

各団体の近況報告の後、一泊研修会について話し合った。研修会会場は、役員会に委ねる。講師は、平山師が不都合な場合は、平山師に講師を推薦していただく。テーマは、「病める心へのアプローチ」(二～三頁)は良いとしてポイントをもう少し絞ったほうが良い。テーマを「危機をどう乗り切るか」として、講師に元山一証券の中の投資信託の方にお願ひしてはどうか。これらの意見をもとに常任役員会で検討・決定する。渡辺佐次郎氏の祈禱をもって終了した。

新生宣教団訪問記

総会において、今年度の活動計画の一つとして加盟団体訪問ツアーが承認されました。目的は加盟団体の働きの現場を実際に訪問し、働きを肌で感じていただくこと、また訪問先で必要な祈りの項目をお伺いし、共に祈り合い祈りの輪を広げる機会を持つことです。

五月二二日、今にも雨が降ってきそうな天気の中、東武東上線・高坂駅で待ち合わせ、新生宣教団の西沢さんが出迎えて下さり、伝道協訪問ツアー第一弾の新生宣教団ツアーの幕が切つて落とされました。僅か五団体五名の参加でしたが、三名は新生宣教団訪問が初めてとのこと、期待に胸膨らませておいででした。お互いに自己紹介をして、中村部長が工場移転の経緯や働きと現有設備の概要を説明して下さい、その後、リール総裁とスタッフ共々工場を案内していただきました。最近導入された三菱重工業製の四色高速輪転機による印刷速度の速さ



と、束になって出てくる印刷物（当日はカザフ語の聖書）に一同圧倒されました。その他に三菱製と小森機械製の輪転印刷機、枚葉印刷機や製版設備、ペーパーカッター（俗称ギロチンカッター）、折機、中とじ機、カレンダー用自動梱包機等、印刷工場としても中堅クラス以上の設備を有し、神様の栄光のためにこれらの設備が用いられていることに、ある種の感動を覚ええました。ある人はリーダー総支配人の許可を得て興奮気味に写真を撮ったり、ある人は旧知の知人にも会え喜んでおられました。

独身者用の寮やスタッフ用の食堂もあり、厚生施設も整っています。見学の後、総支配人室でリーダー総支配人が開口一番、伝団協加盟団体の訪問により、お互いの働きが解ることは感謝なことであると、述べられました。また、同総支配人より新座から当地鳩山に移転するにあたり、全員が一致して折り、一人として移転により退職者が出なかつたこと、建築許可条件の下水管を川まで配管することに関し、地主の物

凄い抵抗があったが、主は祈りに答えてこの方の心を開いて下さり、若い頃ミッシェンスクールに通っていたことを話され、破格の賃貸料で土地を貸して下さり、現在はとても良い協力者であるとの証がなされ私達の胸にぐっとくるものがありました。これらの証しを通して、逆に私達が励まされました。

最後に新生宣教団のために、参加者全員で祈禱課題（倉庫拡大のための土地が与えられることと、多くの言葉で聖書を必要としている諸国に確実に聖書が届けられること）をお祈りさせていただきます。

この伝団協加盟団体の訪問ツアーは、次回九月を予定しておりますが、目的をご理解の上、是非多数ご参加いただければと願っております。また積極的に訪問をお受け下さる団体は事務局にお申し出下さい。



伝道団体紹介

健全な教会の開拓と成長を願って

ライフミニストリーズ

この使命に基づいて健全な教会の開拓と成長のために働かせていただいております。「二十／二十ビジョン」という目標を掲げ、二〇二〇年までに主のお導きであれば、一〇〇の教会開拓、一〇〇〇の健全な教会の成長に貢献させていただき、その結果究極的には一〇〇万人が救い導かれることを祈りつつ励んでいます。

具体的には、日本教会成長研修所の働きとして、北海道、東北、関東、関西、九州・沖縄の五地区において地域別教会成長研修所を設立させていただきます。二年前の牧師研修が行なわれています。教会開拓については、ネットワークによる教会開拓の試験的プロジェクトが山形で行なわれ、三年間に五教会がそれぞれ子教会を生み出す祝福にあずかりました。二〇二〇年には北海道、沖縄、二〇二〇年には関東、関西でのネットワークの開始を目指して準備中です。また、教会開拓、教会成長を支援するために北米から夏季の伝道チーム（今年は一〇五名がやって来ます）、ワーシップ・リーダーの養成や生き生きとした礼拝をささげるためのセミナーなど行なっています。本年秋には、米国のウイロークリーク教会やトリニティー神学校での研修を含む「米国教会成長ツアー」が行なわれます。

LIFE
MINISTRIES

「伝団協」加盟団体「ニュース・フラッシュ」

●多くの教会の要請に答えて、今まで十二課からなっていた「よい証人」のテキストを八課にまとめることにし、作業進行中です。三重県の総動員伝道実施に向け、説明会を予定しています。

(総動員伝道)

●先日、春の一日研修会を終えました。次は、九月三日～五日、湯河原厚生年金会館でリトリートと総会を予定しています。講師は、有賀喜一師、中川健一師、三森春生師で、二十一世紀における日本の宣教を思い、祈ろうとしています。

(日本伝道者協力会)

●活動予定・国外研修(七月二十日～八月三日、医学生四名参加)、医科系聖研と合同キャンプ(八月八日～十一日、新潟)、シンポジウム(九月十五日、関西で「子育て」、十月八日、関東で「高齢者ケア」を開催します。)

(福音主義医療関係者協議会)

●証しの新聞「よろこびの泉」誌を毎月三万五千部発行。英会話教室「JOYCLUB」にて多くの教会へ宣教師を派遣。年間を通じてキャンプや課外活動を行い宣教に励んでいます。

(日本ミッション)

●第四十八回「こころの友伝道」全国大会のご案内時・八月二十八日(火)～三十日(木)、於・天城山荘、講師・小助川次雄師、音楽・

岩淵まこと氏、心の触れ合いを重視した信徒伝道の働き。詳細は、電話(〇三・三二〇〇・五五五九)

(こころの友伝道全国連合会)

●学生伝道用「四つの法則」を作成中！若者向けに字数は少なくフルカラーで写真も満載。伝道用ホームページも若者用、中年向けとターゲットを分けて作成中です。

(日本キャンパスクルセード・CCC)

●この夏もCCCと協力して群馬、茨城、山梨の各県で集中伝道を行います。韓国、台湾からワーカー約二百名が来日、地域教会とともに一軒一軒に福音を伝えます。

(全国家庭文書伝道協会・EHC)

●日本聖書協会が、日本における聖書普及二五年の歩みをまとめた『日本聖書協会二二五年史』を発行。希望者には千円で頒布。問い合わせ、電話・〇三・三五六七・一九九〇へどうぞ。

(財・日本聖書協会)

●七月二十三日・二十四日 夏期教会音楽講習会、七月二十七日オープンキャンプ(要申込)九月から留学生のコースがスタートします。

(東京キリスト教学園)

●PBAサマーキャンプが、八月九日～十一日、

恵みシャレー軽井沢で開かれます。テーマは「泉のほとり」、講師・羽鳥明、村上宣道、榎原寛、関根弘興。費用二万三千元。ご参加下さい！

(太平洋放送協会・PBA)

●五月から再開したフライデーナイトも毎回百人近い若者が集い、賛美とメッセージで祝福された集会が続いております。新たにスタートしたフライデーナイトを覚えてお祈りください、ぜひ一度参加して下さい。

(お茶の水クリスチャン・センター)

●卸部・八王子流通センターが八月下旬より府中へ移転します。より機能的・効率的な流通業務のためにお祈り下さい。

(いのちのことは社)

(伝道団体連絡協議会 献金のおねがい)

伝道団体連絡協議会・傘下の各団体(約五十)は、多くが教会やクリスチャン個人、クリスチャン企業による献金によって成り立っています。二〇〇一年はここ数年にわたる経済的な困難に見舞われ、どの団体も苦渋を味合わされています。教会と共に主の働きをしています「伝道団体」のために祈り、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

(郵便振替〇〇一五〇〇一五四六四四四)

発行日	二〇〇一年七月
発行者	村上宣道
編集者	萩生田充